

セキュアEメールゲートウェイのリソース節約モードについて

内容

[概要](#)

[セキュアEメールゲートウェイのリソース節約モードについて](#)

[GUI](#)

[CLI](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Secure Email Gatewayのリソース節約モードについて説明します。

セキュアEメールゲートウェイのリソース節約モードについて

リソース節約モードは、内部システムリソースが不足したときにEメールゲートウェイが開始する自己保護モードです。たとえば、RAM使用率が容量の45 %を超えると、AsyncOSはリソース節約モードになります。

基本的に、リソース節約モードは、Eメールゲートウェイに着信するメッセージのレートが、ゲートウェイから発信されるメッセージのレートよりも高い場合に入力されます。これらのレートの差は一般的なものですが、受信レートが配信レートを長期間超えるか、または大きな差がある場合、Eメールゲートウェイには追加メッセージを保存するためのリソースがありません。

リソース節約モードの目的は、Eメールゲートウェイに着信するトラフィックを遅くして、配信率が許容率を超え、メッセージをシステムから排出することです。

リソース節約モードはオン/オフスイッチではありません。AsyncOSがリソース節約モードに入ると、着信メッセージと発信メッセージのレートのバランスをとるためにメッセージを受け入れるレートが徐々に遅くなります。リソースが完全に使い果たされた極端な場合、AsyncOSは新しいメッセージの受け入れを拒否します。

AsyncOSがリソース節約モードに入ると、アラートメッセージを送信します。アラートを設定した場合は、`alertconfig` コマンドを発行すると、このアラートのコピーを受信します。

注：アラートは通常のAsyncOSメールシステムを通過しないため、別のメッセージ配信が停止した場合でも配信できます。AsyncOSがリソース節約モードを終了すると、別のアラートを受信します。

リソース節約モードは、GUIとCLIの両方で表示できます。

GUI

EメールゲートウェイのGUIから、 **Monitor > System Status** リソース節約モードのステータスを表示します。

CLI

次を入力します。 `status detail` コマンドをCLIに入力して、アプライアンスがリソース節約モードに入ったことを確認します。

GUIとCLIの両方で表示されるResource Conservationの値は、0 ~ 60の値(999)です。0 ~ 60の数値は、システムが重要なシステムリソースの急激な枯渇を防ぐためにメッセージの受け入れを減らす度合いを表します。値が大きいほど、受け入れ率が低下します。ゼロは、完全な受け入れ率で動作するシステムである受け入れの減少を表しません。[Resource Conservation]の値が999の場合、システムは挿入メッセージを受け入れません。